

小中学校における多様な評価手法に関する研究（道徳）

—一枚ポートフォリオ評価を軸とした道徳の時間における評価の在り方—

平成27年3月に学習指導要領の一部改正が行われ、道徳の時間が「特別の教科」という新たな枠組みによって教科化されるに当たり、道徳の時間における評価の重要性が増すとともに、具体的な方策が求められている。そこで、複数時間を通した道徳の時間における評価の取組として、一枚ポートフォリオ評価を軸とし、生かし方記録を活用した実践について調査・分析を行った。その結果、児童生徒の学習状況を把握し、指導に生かす視点を得られることが分かり、道徳の時間における具体的な評価手法の一つとなり得ることが実証された。

<検索用キーワード> 道徳の時間 一枚ポートフォリオ評価 道徳的価値の自覚を深める
複数時間 学習状況 成長実感 道徳性に係る成長の様子 生かし方記録

研究協議会顧問

名城大学人間学部教授

宮嶋 秀光

研究協議会委員

豊川市立金屋中学校主幹教諭

田中 基明(平成27年度)

総合教育センター経営研究室長(現尾張旭市立旭中学校長)

水野 茂(平成26年度)

総合教育センター研究指導主事

織田 剛(平成26, 27年度)

総合教育センター研究指導主事

芳賀 康臣(平成26, 27年度)

総合教育センター研究指導主事

片山 雅貴(平成26, 27年度)

総合教育センター研究指導主事

高石 幸信(平成26, 27年度主務者)

1 はじめに

児童生徒に「生きる力」を育むことは、現行の学習指導要領にも引き継がれ、「生きる力」の重要な要素である「豊かな人間性」の育成において道徳教育が担うところは大きい。本県では、「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」において、幅広い県民の参加により道徳性・社会性の向上を図っていくことを重点目標に掲げ、学校・家庭・地域が連携してさまざまな取組を行ってきたが、学校における道徳教育のいっそうの充実が求められている。

小学校及び中学校では、「道徳の時間」を要として、道徳教育についてさまざまに工夫された実践や活動が行われている。しかし、平成27年3月に学習指導要領の一部改正が行われ、道徳の時間が「特別の教科」という新たな枠組みによって教科化されるに当たり、検定教科書の使用や評価の在り方等、取り組むべき課題に直面している。平成24年度に文部科学省が実施した道徳教育実施状況調査において、道徳教育を実施する上での課題として「指導の効果を把握することが困難である」と回答した学校が46.8%と最も多く、評価については模索しながら行っている現状がある。

そこで、本研究では小学校及び中学校における道徳教育の評価の具体的な方策を探り、道徳の時間

における指導に生かす評価手法の在り方について研究を進めた。

2 研究の目的

小学校及び中学校における道徳の時間を中心とした道徳教育において、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することにより、指導に生かすための具体的な評価手法について提案し、道徳教育のさらなる充実に資することを目的とする。

3 研究の方法

平成 26, 27 年度の 2 年間を研究期間とし、平成 26 年度は所員による調査研究、平成 27 年度は研究協力委員と所員との共同研究を行う。道徳の時間における指導に生かす評価手法の在り方として、以下の点について調査・分析をする。

- ・道徳の時間における評価の基本的な考え方について
- ・一枚ポートフォリオ評価を軸とした道徳の時間における評価の在り方について

4 研究の内容

(1) 道徳の時間における評価の基本的な考え方について

現行学習指導要領及び平成 27 年 3 月に一部改正された学習指導要領（以下、「一部改正学習指導要領」という）では、道徳教育に関する評価について、次のように示されている。

現行小学校学習指導要領 第 3 章 道徳【（ ）内は中学校】

- ・児童（生徒）の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。

一部改正小学校学習指導要領 第 3 章 特別の教科 道徳【（ ）内は中学校】

- ・児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

現行学習指導要領、一部改正学習指導要領ともに、「児童生徒の実態を継続的に把握すること」「把握した実態を指導に生かすよう努める必要があること」「道徳の時間（改正後は道徳科）に関して数値などによる評価は行わないものとする」ということについて示されており、押さえるべき視点と言える。また、一部改正学習指導要領には、児童生徒の「学習状況」を把握することの必要性が示されていることから、現行の道徳の時間における評価に取り組む上で、児童生徒の「学習状況」を把握することは、着目すべき点である。そこで、一部改正学習指導要領への移行も踏まえ、道徳の時間における評価を、児童生徒の「学習状況」を把握することを中心とし、指導に生かす評価とするために、次の五つの視点で取り組むことが重要であると考えた。

- ・複数時間の指導を通して、児童生徒の学習状況を把握すること
- ・児童生徒が、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができたかを把握すること
- ・児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握すること
- ・児童生徒の自らの成長実感を把握すること
- ・把握した児童生徒の学習状況に基づき、指導に生かす視点を得ること

(2) 一枚ポートフォリオ評価と道徳の時間における評価について

ア 一枚ポートフォリオ評価の概要

一枚ポートフォリオ評価は、「教師のねらいとする学習の成果を、学習者が一枚の用紙の中に学習

前・中・後の学習履歴として記録し、それを自己評価させる方法」として、堀哲夫が2002年に開発したものである。一枚ポートフォリオ評価では、学習者が記録する一枚の用紙としてOPP（One Page Portfolio）シートを用いるが、そのOPPシートを構成する要素として、堀は「A 単元名タイトル」

「B 学習前・後の本質的な問い」「C 学習履歴」「D 学習後の自己評価」の四つを挙げている。OPPシートの例（資料1）とともに、それぞれの要素の概要を以下に示す。

【資料1 道徳の時間におけるOPPシートの例】

A 単元名タイトル
あらかじめ教師が書き込むことが多いが、単元の学習後、学習者に書かせることもある。

B 学習前・後の本質的な問い
単元などを通して、教師が最も押さえたい最重要点に関わる問いとして、学習前・学習後で全く同じ問いを設定する。

C 学習履歴
授業ごとに、学習者が考える授業のタイトルや最重要点を書く。

D 学習後の自己評価
学習前・後の本質的な問いへの記述の比較や、学習履歴への記述を基に、学習を振り返って自己評価を行う。

イ 道徳の時間における評価の基本的な考え方と一枚ポートフォリオ評価との関連について
道徳の時間における評価の基本的な考え方と、一枚ポートフォリオ評価との関連について、資料1の例を基に示す。

資料1の例では、「命を大切に生きていくことについて考える」を道徳の時間6時間を通したテーマとし、「命を大切に生きていくとは、どういうことだと思うか」という学習前・後の本質的な問いを設定している。設定したテーマと1時間ごとの道徳の時間で扱う内容項目とを関連付け、指導計画を立てる。例えば、第1時から第6時までの指導において、「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」「友情・信頼」「思いやり、感謝」「向上心、個性の伸長」「希望と勇気、克己と強い意志」を内容項目として扱うことが考えられる。道徳の時間における評価の基本的な考え方である五つの視点のうち、「複数時間の指導を通して、児童生徒の学習状況を把握すること」については、OPPシートへの記述内容を基に、また、「児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握すること」「児童生徒の自らの成長実感把握する

こと」については、「B 学習前・後の本質的な問い」「D 学習後の自己評価」への記述を中心に、「児童生徒が、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができたかを把握すること」については、「C 学習履歴」への記述を中心に確認することができる。

一方、「把握した児童生徒の学習状況に基づき、指導に生かす視点を得ること」については、OPPシートへの記述内容を、どのように生かすのかを具体的に考える必要がある。そこで、資料2のような記録を残すことが考えられる。OPPシートの「C 学習履歴」への児童生徒の記述を指導に生かす視点として、「授業改善」「児童生徒理解」「個への指導・支援」の三点を挙げる。それぞれに記録する内容は、次のとおりである。

＜授業改善＞

「ねらいとする内容項目について記述している児童生徒が少なく、指導の在り方を反省する必要がある」など、今後の授業改善を図る視点

＜児童生徒理解＞

「友達を信じるのが大切だと分かったと記述しているが、深く理解しているか分からないため、会話をする」「学習履歴が白紙のため、会話を通して記述させるとともに、次時の抽出児童生徒として、授業中の言動を注視する」など、児童生徒の理解を図る視点

＜個への指導・支援＞

「友達を心から信じることはできないと記述しており、友人関係の変化などを観察し、必要に応じて声をかける」「これからは、心から信頼できる友達になりたいと記述しており、今後の様子を観察し、励ましたい」など、個別に指導・支援をする視点

【資料2 OPPシートの生かし方記録例】

日付	授業	授業改善		児童生徒理解		個への指導・支援	
		出席番号	内容	出席番号	内容	出席番号	内容
6月12日	1	全体	「友を信頼すること」に関する記述がほとんど見られない。発言を板書に示すときに、キーワードとなる言葉に注目できるようにする。				
				31	「友達を信じるのは大切だとわかった」と記述しているが、疑問。そう思う理由について聞き出したい。		
				5	学習履歴が白紙のため、会話をして記述させる予定。次時は、抽出生徒として発言を促し、言動を注視する。		
						2	「友達を心から信じることはできない。楽しければいい」と記述。友人関係の変化などを観察し、必要に応じて声をかける。
						35	「これからは、心から信頼できる友達になりたい」と記述。言動を観察し、認める声かけをしたい。

【授業改善】
＜出席番号＞
授業改善を図ろうとしたきっかけとなる学習履歴を記述した児童生徒の出席番号を入力（「全体」などでもよい）
＜内容＞
「今後の授業に生かす」視点で入力

【児童生徒理解】
＜出席番号＞
理解を図りたいと思った学習履歴を記述した児童生徒の出席番号（一つの内容に複数でもよい）
＜内容＞
「深い児童生徒理解を図る」視点で入力

【個への指導・支援】
＜出席番号＞
個別に指導・支援したいと思った学習履歴を記述した児童生徒の出席番号（一つの内容に複数でもよい）
＜内容＞
『心配』『認めたい』など「個別に指導・支援する」視点で入力

＜日付＞
授業を実施した日付を入力
＜授業＞
指導計画に示してある番号を入力するなど、どの授業であるかが分かるように入力

「OPPシートの生かし方記録」の使い方

①『学習履歴』の記述を今後に生かしたいと思ったことについて、「授業改善」「児童生徒理解」「個への指導・支援」の三つの視点に分けて入力する。

②毎授業、三つの視点全てに入力する必要はない。『学習履歴』には朱書きを入れるので、それ以外にも対応したいと考える事柄のみで構わない。

また、一枚ポートフォリオ評価において、形成的評価を実施する上で重視することの一つとして、堀は学習履歴への記述に対して、教師が適切なコメントを加えることを挙げている。道徳の時間にお

いては「児童生徒の考えを認め、共感的に受け止める」ことが重要であり、児童生徒の学習履歴への記述に、「認め、励ます」視点でコメントを入れる。

(3) 実践の調査・分析計画

県内の小学校及び中学校の実践を調査し、一枚ポートフォリオ評価を軸とした道徳の時間の評価の在り方について分析した。

ア 調査対象

(ア) 愛知県A小学校第6学年2学級 64名

第6学年の学年主任が、道徳教育推進教師を務める学校である。第6学年は全4学級であり、OPPシートを用いて、複数時間の関連を図った指導は全4学級で行った。OPPシートの生かし方記録を活用した取組としたのは2学級であったため、調査対象は2学級とした。

(イ) 愛知県B中学校第2学年3学級 112名

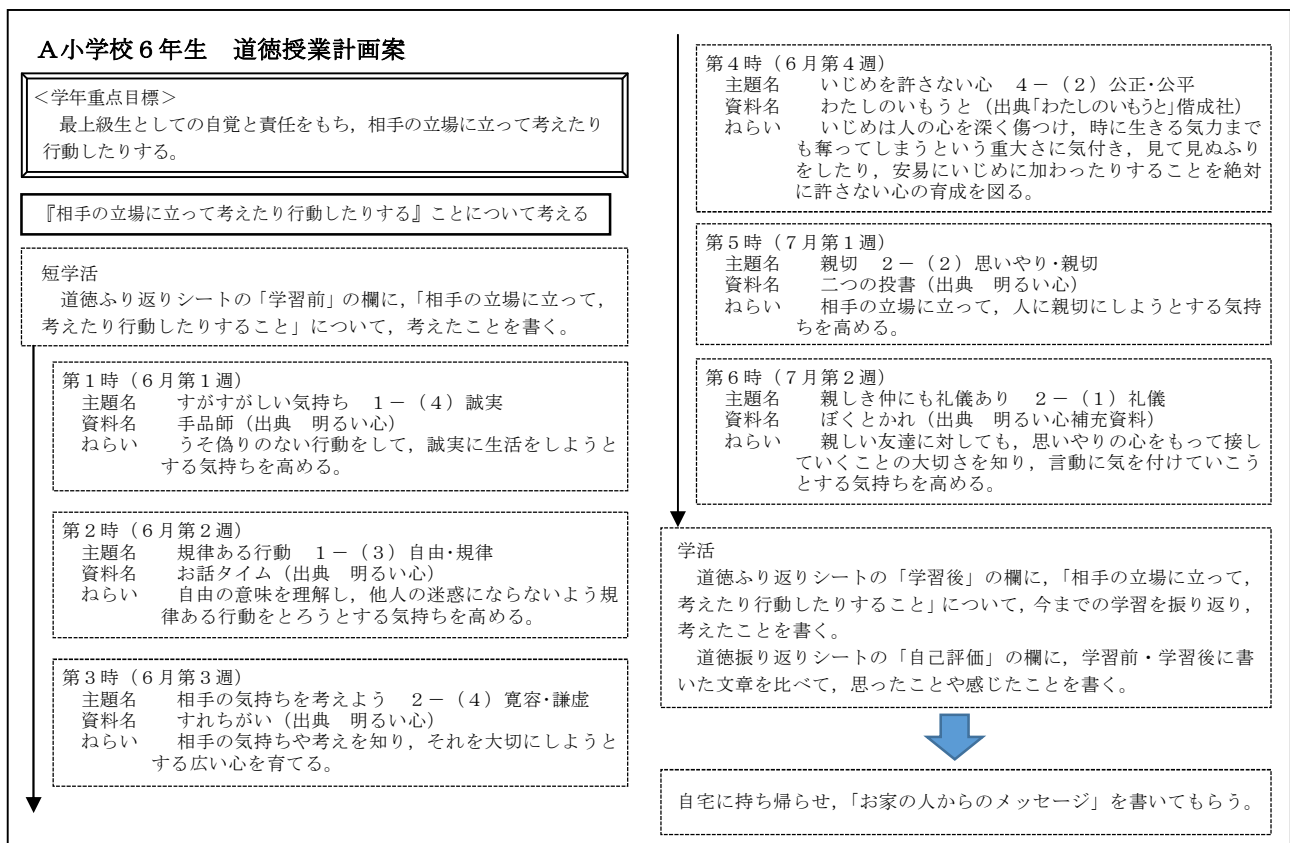
道徳の時間の指導力向上や、学校として道徳の時間の充実を図るため、若手の教員が担任をしている第2学年の一部である3学級で、OPPシートとOPPシートの生かし方記録を用いて、複数時間の関連を図った指導に取り組んだ。その3学級を調査対象とした。

イ 実践計画

(ア) A小学校

① 指導計画（資料3）

【資料3 A小学校の指導計画】



1学期の6時間を実践の対象としている。道徳教育の学年の重点目標を踏まえ、「相手の立場に立って考えたり行動したりすることについて考える」をテーマとし、複数時間の関連を図った取組としている。道徳の時間の年間指導計画を基に、テーマと各時間の内容項目との関連を図り、各時間で取り上げた内容項目は、「1－（4）誠実」「1－（3）自由・規律」「2－（4）寛容・謙虚」「4－（2）公正・公平」

「2-(2)思いやり・親切」「2-(1)礼儀」である。また、「学習前の本質的な問い」については短学活を、「学習後の本質的な問い」「学習後の自己評価」については学級活動1時間を使う計画としている。

② 使用したOPPシート

【資料4 A小学校のOPPシート(表)】

表面(資料4)に、「B 学習前・後の本質的な問い」として『相手の立場に立って、考えたり行動したりする』とは、どういうことだと思うかを設定している。また、「A 単元名タイトル」「D 学習後の自己評価」のほかに、家庭との連携を配慮した「お家の人からのメッセージ」の欄を用意している。「A 単元名タイトル」は、学習後に児童が書くこととしている。

6年道徳ふり返しシート

<タイトル>

○学習前・学習後に書いた文章を比べて、思ったことや感じたことを書いてみましょう。

お家の人からのメッセージ

6年 組 番
氏名 ()

裏面(資料5)に、「C 学習履歴」として「今日の授業で大切だと思ったことを書く」欄を用意し、各授業の振り返りをさせる。また、各授業で児童が学んだことを明確にすることを意図して「今日の学びのタイトル」の欄を用意し、振り返りの最後に児童に記述させることにしている。A3用紙の両面に印刷して、使用している。

【資料5 A小学校のOPPシート(裏)】

【今日の学びのタイトル】

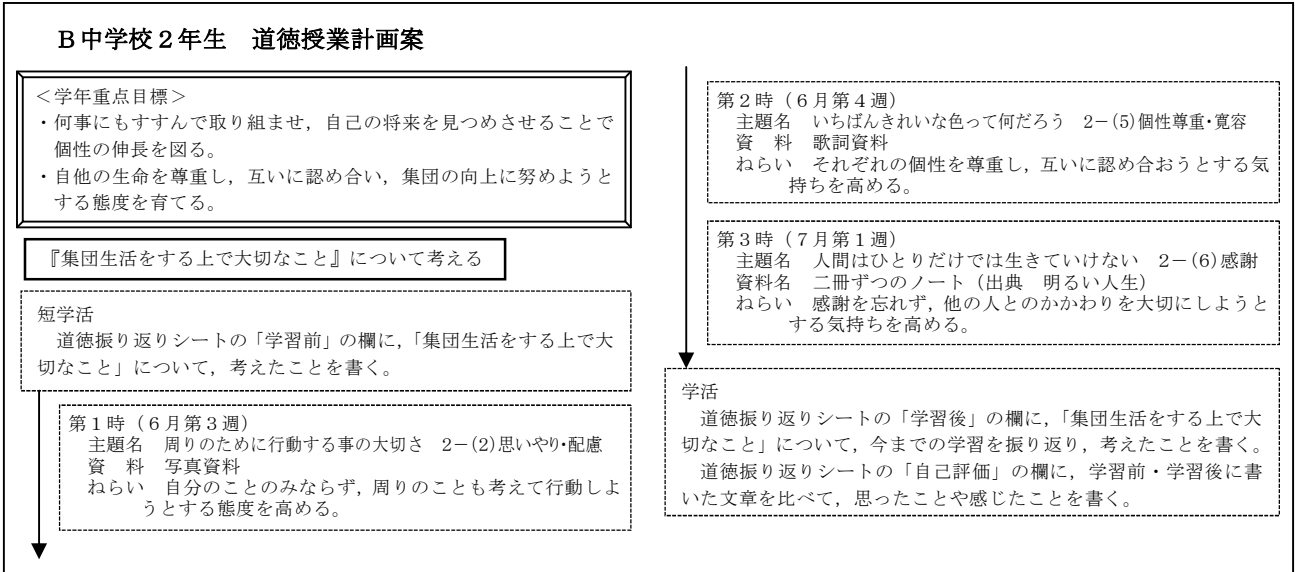
○今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。

(イ) B中学校

① 指導計画(資料6)

1学期の3時間を実践の対象としている。道徳教育の学年の重点目標を踏まえ、「集団生活をする上で大切なことについて考える」をテーマとし、複数時間の関連を図った取組としている。道徳の時間の年間指導計画を基に、テーマと各時間の内容項目との関連を図り、各時間で取り上げた内容項目は、「2-(2)思いやり・配慮」「2-(5)個性尊重・寛容」「2-(6)感謝」である。また、「学習前の本質的な問い」については短学活を、「学習後の本質的な問い」「学習後の自己評価」については学級活動1時間を使う計画としている。

【資料6 B中学校の指導計画】



② 使用したOPPシート

シート1（資料7）に、「B 学習前・学習後の本質的な問い」として『集団生活をする上で大切なこと』とは、何だと思いかを設定している。また、「A 単元名タイトル」「D 学習後の自己評価」の欄を用意している。「A 単元名タイトル」は、学習後に生徒が書くこととしている。


シート2（資料8）に、「C 学習履歴」として「今日の授業で大切だと思ったことを書く」欄を用意し、各授業の振り返りをさせる。また、各授業で生徒が学んだことを明確にすることを意図して「今日の学びのタイトル」の欄を用意し、振り返りの最後に生徒に記述させることにしている。A4用紙の片面に印刷して、2枚のシートを指導の場面に応じて使用している。学習前の短学活の場面ではシート1を、各授業の場面ではシート2を、学習後の学級活動の場面ではシート1・シート2の両方を使用し、生徒に記述させることにしている。

【資料7 B中学校のOPPシート1】

<p>＜学習前＞ ○「集団生活をするうえで大切なこと」とは何だと思いか。思いっただけ書いてみましょう。</p>	<p>＜学習後＞ ○「集団生活をするうえで大切なこと」とは何だと思いか。思いっただけ書いてみましょう。</p>	<p>道徳振り返りシート</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> <p><タイトル></p> </div>
<p>○学習前・学習後に書いた文章を比べて、思ったことや感じたことを書いてみましょう。</p>		
<p>()年()組()番 氏名()</p>		

【資料8 B中学校のOPPシート2】

<p>【今日の学びのタイトル】</p> <p>○今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。</p>	<p>【今日の学びのタイトル】</p> <p>○今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。</p>	<p>【今日の学びのタイトル】</p> <p>○今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう。</p>
---	---	---



ウ 分析の方法

A小学校及びB中学校での実践後、本研究において整理した道德の時間における評価の基本的な考え方である五つの視点に関して分析を行った。「複数時間の指導を通して、児童生徒の学習状況を把握すること」については、OPPシートを活用した指導計画によって可能である。「児童生徒が、ねらいとする道德的価値の自覚を深めることができたかを把握すること」「児童生徒の道德性に係る成長の様子を把握すること」「児童生徒の自らの成長実感を把握すること」の視点に関する分析の方法は、以下のとおりである。

(ア) 児童生徒が、ねらいとする道德的価値の自覚を深めることができたかを把握すること

OPPシートの「C 学習履歴」への記述を基に、次の三つの観点に沿って把握することが可能であるか検討した。

- ・価値理解，人間理解，他者理解
- ・自分との関わりで道德的価値がとらえられること
- ・道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること

(イ) 児童生徒の道德性に係る成長の様子を把握すること

OPPシートの「B 学習前・後の本質的な問い」「D 学習後の自己評価」への記述を基に、道德性の諸様相（道德的心情，道德的判断力，道德的实践意欲と態度）を観点として，その変容を把握することが可能であるか検討した。

(ウ) 児童生徒の自らの成長実感を把握すること

OPPシートの「D 学習後の自己評価」への記述を基に，把握することが可能であるか検討した。

また，OPPシートへ児童生徒が記述した内容・OPPシートの生かし方記録の内容・教師の実践後の振り返りを照らし合わせ，「把握した児童生徒の学習状況に基づき，指導に生かす視点を得ること」が可能であるか検討した。

(4) 分析の実際

ア 児童生徒が，ねらいとする道德的価値の自覚を深めることができたかを把握すること

OPPシートの「C 学習履歴」への記述を基に，「価値理解，人間理解，他者理解」「自分との関わりで道德的価値がとらえられること」「道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること」の観点に沿って把握することが可能であるか検討した。児童生徒の一部の記述と，その分析を示す。

【資料9 A小学校児童の「学習履歴」への記述（第1時）】

学習履歴	
誠実	①約束を守ると約束を守ってくれた相手もうれしいだろうし， <u>自分も罪悪感がなくていいと思います。</u>
	②約束を破ると最後に必ずこうかいするので，約束したことは守ろうと思いました。 <u>約束したことは必ず守って，自分の気持ちに答えようと思いました。</u> ※下線は筆者が加筆した。以下，同じ。

資料9の①では，「自分も罪悪感がなくていいと思います」，②では「約束したことは必ず守って，自分の気持ちに答えようと思いました」と記述されていることから，「誠実さ」を「自分に対するもの」として理解しており，価値理解が図られている状況が分かる。

【資料 10 A小学校児童の「学習履歴」への記述（第2時）】

学習履歴	
自由 ・ 規律	③自分が自由をしていても、その自由でまわりの人にめいわくがかかっているか、 <u>たしかめながら行動することがすごく大切だと思いました。</u>
	④人にめいわくをかけないように、自分の中でルールを考えること、 <u>よく考えて行動する事も大切だと思いました。</u>
	⑤本当の自由は、 <u>自分で考え、判断し、行動することが自分に任されていることだと分かりました。</u>

資料 10 の③では「まわりの人にめいわくがかかっているか、たしかめながら行動することがすごく大切だと思いました」、④では「よく考えて行動する事も大切だと思いました」、⑤では「自分で考え、判断し、行動することが自分に任されていることだと分かりました」と記述されていることから、「自由」を「自律性や責任」と関連付けて理解しており、価値理解が図られている状況が分かる。

以上のことから、「C 学習履歴」への記述により、授業でねらいとする価値に対する理解の状況を把握することができる。と考える。

また、「OPP シートの生かし方記録」を活用し、指導に生かす視点を得ることが可能であるか検討した。資料 11 は、児童生徒が、ねらいとする内容項目と関わる記述が少なかったり、関わっているものの価値の理解には至っていない記述をしたりした際に、教師が残した記録である。

【資料 11 「OPP シートの生かし方記録」より】

①「礼儀」に関わる記述は少ない。導入で、 <u>「礼儀」について触れたり、「親しき仲にも礼儀あり」という言葉を軸にして授業を展開したりするべきだったか。</u> 【A小学校 第6時「礼儀」＜授業改善＞の視点】
②感想が空欄であった。学習の趣旨が分かっているか、 <u>個別に聞き出す。次時で確認。</u> 【B中学校 第1時「思いやり・配慮」＜児童生徒理解＞の視点】
③「誠実」を「相手が喜ぶ、褒められようとしていないのに、褒められると嬉しい気持ち」と書いている。 <u>なかなか自分の気持ちを出せず、よく保健室へも行く。認められたいという気持ちが強いのか。認める声かけをしていく。</u> 【A小学校 第1時「誠実」＜個への指導・支援＞の視点】

資料 11 の①の記録から、授業のねらいに照らして児童の学びの実態を捉え、授業改善の視点を得ていることが分かる。②の記録から、生徒理解を図るための働きかけを明確にしていることが分かる。③の記録から、学習履歴への児童の記述と日常の様子とを関連付けて児童を理解し、「認める声かけをしていく」と、児童への支援の必要性を実感していることが分かる。実践した教師が、資料 12 のように振り返っていることから、「OPP シートの生かし方記録」を活用することは、指導に生かす視点を得る上で有効であると言える。

【資料 12 A小学校教師の実践後の振り返り】

・OPP シートの生かし方記録を書いたことで、普段の授業以上に、子どもたちをしっかりと捉えようとした。記録に書いた子どものことは、授業以外の時間も気にかけるようにしたり、声をかけたりすることができた。
--

しかし、人間理解、他者理解、自分との関わりで道徳的価値がとらえられること、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われることについて、学習履歴の記述内容に表出されているものは少なく、把握することは困難であった。その中で、学習履歴の記述内容に表出されて

いたものの一部と、その分析を示す。

【資料13 児童生徒の「学習履歴」への記述】

学習履歴
<人間理解> ・自分にとっては良いことでも、相手は悲しんだり、きずついたりしてしまうので「 <u>誠実に行動する</u> 」ということは大切だと思いました。しかし、 <u>誠実に行動することは、とても難しいと思います</u> 【A小学校 第1時】。

資料13では『誠実に行動する』ということは大切だと思いました。しかし、誠実に行動することは、とても難しいと思います」と記述されており、「誠実」という価値の大切さとともに、その実現の難しさも理解していることが分かる。

【資料14 児童生徒の「学習履歴」への記述】

学習履歴
<自分との関わりで道徳的価値がとらえられること> ・今日勉強して私もすれちがった経験があったので「 <u>すれちがい</u> 」を読んだ時に「 <u>こんなことあったな</u> 」と思いました。そして、 <u>どちらかが温かく広い心を持つことはとても大切だと思いました</u> 【A小学校 第3時】。

資料14では「私もすれちがった経験があったので『すれちがい』を読んだ時に『こんなことあったな』と思いました。そして、どちらかが温かく広い心を持つことはとても大切だと思いました」と記述されており、授業において自分の経験と照らし合わせて考え、自分との関わりで道徳的価値をとらえていることが分かる。

これらのように、「道徳的価値の自覚を深めること」に関する児童生徒の学習状況を把握することは、道徳の時間における指導に生かす視点を得る上で非常に重要であるため、学習履歴に表出されやすくする工夫が必要になると考える。今回の実践では、学習履歴の欄に「今日の授業で大切だと思ったことを書きましょう」という言葉が示されている。このことが、価値理解以外についての記述が少なくなった要因の一つと言える。A小学校では、学習履歴への記述について、以下のような改善を図り、実践を継続している。

- ・学習履歴の欄には、言葉を示さない。
- ・「道徳的価値の自覚を深めること」に関する視点をOPPシートに示す。
- ・特に、書きたいと思うことをいくつか記述すればよいことを知らせる。

この改善により、さらに、「道徳的価値の自覚を深めること」に関する児童生徒の学習状況を把握することにつながり、指導に生かす視点が得られるようになると考える。

また、価値理解についても、資料9、資料10に示したように、児童生徒の学習履歴への記述から、理解しているかどうかは把握することができたが、授業を通してどの程度深めることができたかを把握することは困難であった。実践した教師自身が、「OPPシートの生かし方記録」の使い方について、以下のように振り返っている（資料15）。

【資料15 A小学校教師の実践後の振り返り】

・OPPシートの生かし方記録は、児童の記述内容から次への改善につなげることにこだわらず、授業の中での発言や気になったことなども記入するとよかった。

授業中の児童生徒の言動を見取り、それと関連付けて学習履歴への記述を分析し、児童の学習状況を把握することの必要性を実感している。この反省を記したA小学校の教師は、第3時以降、授業中

の児童の様子も「OPP シートの生かし方記録」に記録しており、これは、改善の具体的な方法になると考える。

イ 児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握すること

OPP シートの「B 学習前・後の本質的な問い」「D 学習後の自己評価」への記述を基に、道徳性の諸様相（道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度）を観点として、その変容を把握することが可能であるか検討した。児童生徒の一部の記述と、その分析を示す。

【資料 16 A 小学校児童アの「学習前・後の本質的な問い」「学習後の自己評価」への記述】

学習前・後の本質的な問い	
「相手の立場に立って、考えたり行動したりする」とはどういうことだと思いますか。思いっただけ書いてみましょう。	
<学習前> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が喜ぶことを考えて、実行する ・相手の立場になって一緒になやんだりする ・相手のことを考えて行動する 	<学習後> <ul style="list-style-type: none"> ・約束について<u>しっかり</u>守りあう ・人のめいわくになっていないかを、<u>しっかり</u>確かめる ・<u>しっかり</u>と互いの思いを伝えることが大切だと思った ・いじめられている子がいたら相手の話をきいて、手をさしのべる ・今は親切の迷いがあるけど、<u>未来的にはたすけたいです</u> ・親しき仲にも礼儀ありを合言葉に気をつける ・相手と一緒にやんだりしてあげる
学習後の自己評価	
「大切な物がたくさんある。どれも大切にできるようにになりたいな。」としました。	

資料 16 に示したように、学習前・学習後で記述する文章が増え、学習後は「しっかり」という言葉で表現されているように、価値理解が深まっていることが分かる。また、「今は親切の迷いがあるけど、未来的にはたすけたいです」という記述も見られ、人間理解が深まっていることも分かる。学習後の自己評価では、「『大切な物がたくさんある。どれも大切にできるようにになりたいな。』としました」と記述されており、価値理解の深まりに基づく道徳的心情の変容を捉えることができる。

【資料 17 A 小学校児童イの「学習前・後の本質的な問い」「学習後の自己評価」への記述】

学習前・後の本質的な問い	
「相手の立場に立って、考えたり行動したりする」とはどういうことだと思いますか。思いっただけ書いてみましょう。	
<学習前> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちになって行動する ・相手の目線になって行動する ・相手になりきって行動する ・相手の思っていることを考えて行動する 	<学習後> <ul style="list-style-type: none"> ・誠実でいること ・<u>広い心をもって</u>行動すること ・<u>礼儀を忘れずに</u>行動すること ・相手の気持ちを忘れずに行動すること ・自分がされてうれしいことなどを考える ・自分が思っていることとちがうことを相手は考えてたりするから、相手に聞いてみる ・相手がやられて、いやかどうかを考える
学習後の自己評価	
前は、相手がどう思っているかが一番大切だと思っていたけど、自分も、広い心をもったりすることが大切なんだなと思いました。	

資料 17 に示したように、学習前・学習後で記述する文章が増えている。「相手の立場に立つ」ということを、「広い心をもつ」「礼儀を忘れずに」という授業で扱った内容項目を踏まえ、より具体的に理解していることが分かる。学習後の自己評価では、「前は、相手がどう思っているかが一番大切だと思っていたけど、自分も、広い心をもったりすることが大切なんだなと思いました」と記述されており、価値理解の深まりに基づく道徳的心情の変容を捉えることができる。

【資料 18 B 中学校生徒ウの「学習前・後の本質的な問い」「学習後の自己評価」への記述】

学習前・後の本質的な問い	
「集団生活をする上で大切なこと」とは何だと思えますか。思いっただけ書いてみましょう。	
<学習前> ・思いやり ・やさしさ ・助け合い ・協力する	<学習後> ・ <u>自分のことだけを考えるのではなくて人のこともしっかり考える</u> ・ <u>人はみんな一緒じゃない</u>
学習後の自己評価	
学習前は単純なことばかりで、でも学習後には人のことをしっかり考えようと思った。	

資料 18 に示したように、学習前は単語で記述してあることが、学習後には「自分のことだけを考えるのではなくて人のこともしっかり考える」と文章で表現されている。また、学習後に「人はみんな一緒じゃない」という授業で扱った内容項目である「個性尊重・寛容」の視点が増えている。学習後の自己評価では、「学習前は単純なことばかりで、でも学習後には人のことをしっかり考えようと思った」と記述されており、価値について、単純に言葉で理解していたことを、より深く理解できるようになったことに伴う道徳的心情の変容を捉えることができる。

以上のことから、「B 学習前・後の本質的な問い」への記述内容の変化により、価値理解の深まりを把握することができ、その価値理解の深まりと、「D 学習後の自己評価」への記述内容とを関連付けて捉えることで、児童生徒の道徳性に係る成長の様子として道徳的心情の変容を把握することができると思われる。

しかし、道徳的判断力、実践意欲や態度を把握することには課題が残った。道徳的判断力については、児童生徒の記述内容に表出されているものはなかった。これは、学習前・後の本質的な問いの立て方が要因の一つと考えられる。A 小学校・B 中学校ともに、学習前・後の本質的な問いは「テーマに掲げている道徳的価値について、大切だと思うことを書き出す」という形になっている。道徳的判断力は、「道徳的な判断を下す必要がある問題場面に直面した際に、児童生徒がどのように思考し判断するか」等を把握する必要がある。「ある問題場面における判断と、その理由を問うものとする」など、道徳的判断力を表出させる問いの工夫が必要と考える。

道徳的実践意欲や態度については、「学校や家庭での生活の中で、道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが、どれだけ芽生え、また定着しつつあるか」等を把握する必要がある。自己評価に「今後は、〇〇したいと思いました」「これからは、〇〇のような自分になれるといいなと思いました」などの記述もあったが、記述のみで実践意欲や態度の変容を把握することは妥当ではなく、日常生活の言動等と関連付けて把握することが重要である。しかし、児童生徒の記述の内容から「今後どのような点を中心に児童生徒の様子を把握するか」という視点を得ることはできる。「OPP シートの生かし方記録」の〈個への指導・支援〉を、工夫して活用することで改善を図ることができると考える。

ウ 児童生徒の自らの成長実感を把握すること

OPP シートの「D 学習後の自己評価」への記述を基に、把握することが可能であるか検討した。児童生徒の一部の記述と、その分析を示す。

【資料 19 児童生徒の「学習後の自己評価」への記述 1】

学習後の自己評価
①学習前は、相手に気づかうしか書けなかったけど、学習後は、いろいろな事が書けたので <u>スゴイと自分でも思いました</u> 。
②今までは少しのことにしか目を向けていなかったけど、今では多くのことに目を向けられるようになり、 <u>少し不思議です</u> 。「人ってこんなに変わるものなのかな。」と疑問をもちます。

資料 19 の①では「スゴイと自分でも思いました」、②では「少し不思議です。『人ってこんなに変わるものなのかな。』と疑問をもちます」と記述されており、自分の変容を驚きをもって捉えていることが分かる。

【資料 20 児童生徒の「学習後の自己評価」への記述 2】

学習後の自己評価
③この道徳をやって「 <u>言葉づかい</u> 」「 <u>相手へのせし方</u> 」「 <u>自分の心の強さ</u> 」など、 <u>こんなことがすごく変わりました</u> 。
④学習前は、あまり思いやり、感情などはなかったけど、学習後は思いやりがあり、感情があって、道徳の授業をやっただけで、 <u>心が少し広くなったように感じました</u> 。
⑤学習をする前は「相手の立場に立って、考えたり行動したりする」ということは何なんだろうとなやんでいましたが、学習をしてどのようなことか理解できました。学習前と学習後に比べて、 <u>自分も少しやさしい気持ちになれたような気がします</u> 。
⑥学習前より学習後のほうが、 <u>人の気持ちをふかく考えられていると思う</u> 。

資料 20 の③では『言葉づかい』『相手へのせし方』『自分の心の強さ』など、こんなことがすごく変わりました、④では「心が少し広くなったように感じました」、⑤では「自分も少しやさしい気持ちになれたような気がします」、⑥では「人の気持ちをふかく考えられていると思う」と記述されており、自分がどのように変容したのかを捉えていることが分かる。

以上のことから、「D 学習後の自己評価」への記述から、自分の変容を肯定的に捉えていること、つまり、児童生徒の自らの成長実感を把握することは可能であると考えられる。実践した教師自身も、以下のように実践を振り返っており、「複数時間の関連を図った指導」を計画し、「OPP シート」を活用したことにより、児童生徒が成長を実感することにつながったと感じている（資料 21）。

【資料 21 実践した教師の振り返り】

- ・子どもたち一人一人が、自分の成長を感じ取り、それを文章に表すことができた【A小学校】。
- ・この方法は、子どもたちにとっても成長を感じられるものだったと思う【B中学校】。

しかし、B中学校においては、学習後の自己評価への記述に、「あまり変わらない」「やっぱり、〇〇が大切だと思った」など、生徒が成長を実感できていないと考えられるものも見られた。これらの生徒は、学習前・後の本質的な問いへの記述内容もほとんど変化していない。「集団生活をする上で大切なことについて考える」という「4 主として集団や社会との関わりに関すること」を中心としたテーマであることに対して、道徳の時間で取り上げた内容項目が「2-(2)思いやり・配慮」「2-(5)個性尊重・寛容」「2-(6)感謝」であり、テーマとの関連が生徒にとって捉えにくかったことが要因

の一つと考えられる。実践した教師自身も「学習前・後に書かせた問いが授業内容に対してふさわしいものかどうか判断が難しかった」と反省点を挙げている。テーマを基に指導計画を立てることの重要性を実感しており、指導に生かす視点が得られていると言える。

また、学習後の自己評価への記述内容の分析をする中で、児童生徒が道德の時間の学びに意義を感じていることが表出されているものも多くあった。児童生徒が道德の時間の学びに意義を感じることは、道德教育の充実を図る上で重要であると考え。そこで、この点についても、児童生徒の一部の記述と、その分析を示す。

【資料 22 児童生徒の「学習後の自己評価」への記述】

学習後の自己評価
① <u>道德は、これからとても役立つ</u> 、気持ちがスッキリするんだなあとあらためて思いました。
② <u>道德の授業をやってない自分と6回授業をやった自分とで、内容もすごく変わるんだな</u> と思いました。
③同じ文章なのに道德の授業を受ただけで <u>考えが変わって、おどろいたし、道德の授業の大切さがわかった</u> 。

資料 22 の①～③の記述には、児童生徒が道德の時間の学びに意義を感じていることが表出されている。②では「道德の授業をやってない自分と6回授業をやった自分とで、内容もすごく変わるんだなと思いました」、③では「考えが変わって、おどろいたし、道德の授業の大切さがわかった」と記述されており、自分の変容と関連付けて、道德の時間の学びの意義を実感していることが分かる。資料 19、資料 20 で示した児童生徒の記述内容は、学習前・後の比較によるものであり、明確に「道德の時間の学びの意義」を記述していなくとも、「道德の時間の学びによる成長」を表していると言える。「複数時間の関連を図った指導」を計画し、「OPP シート」を活用した実践は、児童生徒に道德の時間の学びの意義を実感させる上でも有効である。

エ 児童生徒を共感的に受け止める取組

一枚ポートフォリオ評価を開発した堀は、形成的評価を実施する上で重視することの一つとして、学習履歴への記述に対して、教師が適切なコメントを加えることを挙げている。今回の実践では、道德の時間において「児童生徒の考えを認め、共感的に受け止める」ことが重要であると考え、児童生徒の学習履歴への記述に、「認め、励ます」視点でコメントを入れた。教師が入れたコメントについても検討を行った。児童生徒の記述と教師のコメントの一部を、以下に示す。

【資料 23 児童生徒の「学習履歴」への記述と教師のコメント】

学習履歴	教師のコメント
自分のことではなく、 <u>約束したことを守る</u> 、 <u>誠実でなければいけない</u> と思いました。 <u>約束を破ると、後々こうかいするかもしれない</u> と思いました。	相手との約束を破ると、心に後悔が残りそうですね。
私は、 <u>こまっている人がいたら、助けてあげよう</u> と思いました。今日の授業で <u>親切</u> ということが大切だと思いました。これからは、 <u>親切なことをできるようにしたい</u> です。	親切なことができるようになりたいね。
考えると私はいろいろな人に支えられている。その人に感謝したい。	支えてくれる人に感謝したいと素直に思えること、ステキですね。

(注) 学習履歴欄の波線は、教師が引いたものである。

資料 23 の教師のコメントを見ると、児童生徒が記述した言葉を繰り返し、「認め、励ます」ように記してあることが分かる。このような教師のコメントは、「教師に共感的に受け止められている」と児童生徒が実感することにつながる。しかし、教師の実践後の振り返りから、学習履歴にコメントを入れることの難しさもうかがえる（資料 24）。教師のコメントの在り方については、今後も検討が必要である。

【資料 24 A 小学校教師の実践後の振り返り】

- ・朱書きを入れるポイントは何か。毎時間の学習履歴は、波線ばかりになってしまった。コメントは、担任の道徳性がそのまま出る。しかし、じっくり考えていると時間がかかり過ぎる。結局同じようなコメントばかり書いてしまった。

また、A 小学校では、家庭との連携を踏まえ、OPP シートに「お家の人からのメッセージ」の欄を準備した。学習後に保護者が書いたメッセージの一部を、以下に示す（資料 25）。

【資料 25 A 小学校保護者のメッセージの記述】

お家の人からのメッセージ

- ・親切な気持ち、人を思いやる心を感じる事が出来た授業を受けることが、〇〇を成長させてくれましたね。これから、いろんな人とかかわって、むずかしい事が出てくるけれど、人生の勉強だから、すてきな大人になって下さい。
- ・良く学びました。目で見えない「人の気持ち」に気づくことの大切さ、難しさを学ぶことができたことは、すばらしいことと思いました。
- ・人間としてのとても大切なこと、大事にしないといけないこと、いっぱい学んだね。忘れないで成長していくと素敵な大人になれるね。
- ・しっかり道徳を自分なりに理解できているんだと感心しました。その心を忘れないで、毎日を楽しく過ごしてくださいね。

資料 25 の保護者のメッセージの記述から、児童は保護者に認められていることを実感することができていると考える。A 小学校では、児童の OPP シートを掲示し、児童同士がいつでも見られるようにしていた。休み時間には、児童が笑顔でお互いのシートを見て言葉を交わしており、児童同士が認め合う雰囲気が構築されたのではないかと、実践した教師は振り返っている。教師が共感的に受け止めることはもちろんのこと、保護者から認められたり、児童生徒同士で認め合ったりすることは、「児童生徒がよりよく生きようとする意欲」を支える上で重要である。OPP シートを活用した取組の工夫として示しておきたい。

5 研究のまとめと今後の課題

道徳の時間における評価について、「児童生徒の学習状況を把握することを中心とし、指導に生かす評価」として、基本的な考え方を整理したことや、その考え方にに基づき、一枚ポートフォリオ評価を軸とした手法が道徳の時間における具体的な評価手法の一つとなり得ることを実証したことは、本研究の成果と言える。一方、指導に生かす視点から具体的にどのように指導計画や指導方法の改善・充実を図るか、複数時間を関連付けた道徳の時間を年間指導計画にどのように位置付けるかが課題である。今後、多くの学校で実践が積み上げられ、さらなる道徳教育の充実が図られることを期待する。

参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』東洋館出版社，2008
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版，2008
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』2015
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』2015
- 中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」2014
- 堀哲夫著『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館出版社，2013
- 田中耕治編『よくわかる教育評価 第2版』ミネルヴァ書房，2010